

防災・減災のページ

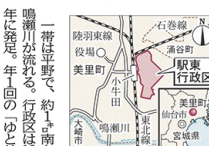
毎月11日掲載

巡回ワークショップ @宮城・美里 駅東行政区

むすび塾

駅東行政区は、R小由駅に隣接した住宅地。2006年度に地震を発生した。東日本大震災後は土砂崩れや宮城県沖の地震の影響を受け、7月1日現在、386世帯約1100人まで減った。

駅東行政区



一帯は平野で、約1.5kmを流れる。行政区は13年、約1.5kmを流れる。行政区は13年、約1.5kmを流れる。



世代を超えつながり構築を

「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

備えとコミュニティ

東日本大震災の教訓を多岐に生かすため、河北新報社が29日、巡回ワークショップ「むすび塾」を宮城県美里町の駅東行政区で開いた。東北以外の開催を希望する自治体の住民11人が、日頃の備えを話し合った。

■むすび塾に参加して



「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

「震災時の空」地域で人々の生活が停滞してしまっている。訓練の安全確保を確保して、一歩ずつ対策を進めたい。

減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎さん



地域の人材を発掘、活用

防災訓練はコミュニティづくりから生まれる。隣近所の協力が原動力になる。イベントは同じ祭りや住民の交流が活きたれば、地域の備えにつながる。

「震災後の白間」陸の孤島を閉じた。地味だが新しい人を連れてくる。少子化が論議されている。経験を生かして伝えていく。

「震災後の白間」陸の孤島を閉じた。地味だが新しい人を連れてくる。少子化が論議されている。経験を生かして伝えていく。

備えにつながるコミュニティ活動

年数回は小中学生が広報誌を配布し、町内会と世代間交流を図る

町内会でホームページを作り、平時から情報発信し、災害発生時にも利用する

住民や地域の被災体験を文書などにまとめ、町内会で活用する



イラスト 東海林伸吾

訓練内容は全戸配布

旭台行政区はサイレン、設置管理している。付きハンドブックを全戸配布する。被災時サイレンの回数で。

- ### 旭台行政区のアドバイス
- 1 サイレン付きハンドブックを活用する
 - 2 サイレンの回数で避難の開始や火災の発生などを住民に知らせる
 - 3 自主防災組織の活動予定を全戸配布する
 - 4 防災資材の購入費を前倒りで稼ぐ
 - 5 近くの学校と連携する



宮城県亘理町旭台行政区長 笹原 茂夫さん

工夫凝らし交流促進

「むすび塾」は、地域の人々のつながりを強め、防災・減災に取り組む。活動は始まったばかり。活動は始まったばかり。活動は始まったばかり。

減災・復興支援機構専務理事 宮下 加奈さん